



入試問題に

聞き取り問題

挑戦

2

インタビュー

解答

／100

①

例 自分の手そのもの。

(50点)

②

例 何百年も残る仕事に関わっていること。

(50点)

問題文

① 高田さんは、「宮大工」にとって道具とはどのようなものか、教えてください。

② 高田さんは、「宮大工」の仕事のやりがいほどのことであると教えてくださいか、答えなさい。



入試問題に

聞き取り問題

挑戦

2

インタビュー

放送文

伊藤 こんにちは、伊藤です。今日はよろしくお願ひします。

高田さん こんにちは、高田です。よろしくお願ひします。

伊藤 さっそくですが、宮大工みやだいくの仕事の内容を教えてください。

高田さん はい。みなさん、大工は知っていても、宮大工がどんなものか、知らない人も多いかも
しれませんね。宮大工というのは、神社や寺を建てたり直したりする大工のことです。神社や寺
って、普通の家とは違うやり方で建てるんですよ。それに地方によってそれぞれくり方が違っ
て、おもしろいですよね。

伊藤 そうなんですか。神社や寺の建て方は、普通の家とどこが違うんですか？

高田さん 神社や寺は、釘くぎとか金属をほとんど使わずに建てていきます。「木組み」っていう方法
なんですけど、ひとつひとつ、木と木を組んで、積み上げて建てていきます。ここが家とかほか
の建物と大きく違う点ですね。

建て方を具体的に言うと、まずはじめに木を現場に行く前の加工場で、寸法通りに、切ったり
削ったりします。たまに機械を使うこともありますが、基本的には手仕事ですね。ノミやカンナ
などの道具を使って、手で削ります。だから私たち宮大工にとって、道具はまさに自分の「手」
そのものという感じですね。使い込んで短くなった自分のノミを、みんなとても大切に使ってい
ますよ。そのあと、削った木を現場に持って行って、建物の形に合わせ組んでいくんです。

伊藤 道具をまるで自分の手のように使って、木だけでつくっていくなんてすごいですね。宮大工
の仕事をしていたて特に難しいと思うのは、どんな時ですか？

高田さん そうですね。現場で実際に木を組む時ですね。加工場であれほどきちんと考えて削った
ものが、現場ではわずかな誤差でうまく納まらないこともあって、こんなとき「木組み」の難し
さを痛感します。それから、屋根や軒の曲線のところの仕上げをするのも難しいですね。ここは
経験を積んだ宮大工でも難しいところで、ここをどれだけきれいに仕上げるのが、宮大工とし
ての腕のみせどころなんですよ。

伊藤 それでは最後に、宮大工の仕事のやりがいを見せてください。

高田さん 宮大工の世界は「一生修行」と言われる厳しい世界です。それでも一生懸命やるのは、
つくった神社や寺はこれから何百年も残るものだからです。宮大工のやりがいは、そんな何百年
も残る仕事に関わっていることですね。そして、私たちの仕事が本当に評価されるのも、何百年
後、私たちがいなくなつてからの話です。未来の人たちに「すごいなあ、昔の人は」と言っても
らえたら、宮大工としてこんなにうれしいことはないですね。

伊藤 今日は貴重なお話を聞かせてくださって、ありがとうございました。

(H25島根)

(参考資料)

「建築最前線で活躍する人々」(社団法人 日本建設業連合会 建築本部 関西委員会)